

興慶宮

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



この記事には参考文献や外部リンクの一覧が含まれていますが、**脚注による参照が不十分であるため、情報源が依然不明確です**。適切な位置に脚注を追加して、記事の信頼性向上にご協力ください。（2015年6月）

興慶宮（こうけいきゅう）は、中国陝西省の古都の長安（西安市）において、唐代に造られた宮殿。唐の玄宗の時代に政務が行われたことで知られる。

現在は、建築物はなくなっており、礎石が一部残るだけである。跡地に「興慶宮公園」（以下）ができており、阿倍仲麻呂の記念碑などもある。



興慶宮東門



公園内の阿倍仲麻呂記念碑

目次

概要

興慶宮公園

参考文献

外部リンク

概要

長安の東端にある「隆慶坊」に位置し、唐の睿宗が皇子であった五人の息子に賜った邸宅が元となった。当時、皇太子であった李隆基（後の玄宗）も他の四人とともに住んでいた。

玄宗が皇帝となった後、「隆慶坊」は、「興慶坊」と改められ、714年（開元2年）、坊名にちなんで、一坊全てを「興慶宮」とする。その後、数次に渡る工事が行われ、720年（開元8年）、宮城の南西部に突き出す形で「勤政務本楼」と「花萼相輝楼」が建造されている。728年（開元16年）正月に、玄宗は興慶宮で政務を行うようになった。興慶宮は北にある「太極宮」・「大明宮」と区別するため、「南内」と呼ばれた。南北1.3キロメートル、東西1.1キロメートルあり、北側が宮殿、南側が庭園となっていた。南には、「竜池」という湖が存在し、船を浮かべることもあった。732年（開元20年）には、興慶宮と長安の東南隅にある曲江池の付近にある離宮「芙蓉園」、北部にある「大明宮」へとつながる皇帝専用の通路である「夾城」が完成している。「夾城」は、二重城壁で挟まれた通路であり、住民たちに知られることなく、皇帝たちが移動するためのものであった。

興慶宮の正門は中国の宮殿には珍しく西側にあり、「興慶門」といった。その内にあった興慶宮西北部にある「興慶殿」が正殿となった。その南が「大同殿」であり、横に鐘楼と鼓楼が立ち、老子の像が祀られていた。また、「竜池」の近くには、沈香木で作られた「沈香亭」があった。「勤政務本楼」と「花萼相輝楼」は、直接、大路に接するようにつくられた高層建築物であった。

「**竜池**」には、雲気がただよい、**黄竜**が現れ、玄宗が皇帝に即位する前兆となったという伝承があり、南側に、竜を祀る「**竜堂**」や「**五竜壇**」があった。また、東北側に「**沈香亭**」があり、**牡丹**の名所で知られ、玄宗と**楊貴妃**が花見を行ったこと、**李白**がこれを題材に詩を詠い、それを**李龜年**が歌にしたというエピソードで知られる。近くの「**金花落**」に衛士の屯所があったと伝えられる。

「**大同殿**」は、**呉道玄**と**李思訓**の**山水画**が描かれたことで知られる。

「**花萼相輝楼**」は、興慶宮の西側にある「**勝業坊**」に住む兄の**寧王李憲**・弟の**薛王李業**、西北の「**安興坊**」に住む兄の**申王李撝**・弟の**岐王李範**と親しむために、造られた（玄宗をいれるこの五人で「**五王**」と呼ばれていた）。玄宗は彼らを呼び、歓楽と親愛を示すと同時に、彼らの動静を調べて遊楽に溺れているのを知り、喜んでいたと伝えられる。

「**勤政務本楼**」は、玄宗を政務を行う中心的な場となり、重大な儀式を行う場ともなった。玄宗の誕生日である**8月5日**には、**千秋節**が行われ、臣下や民衆に酒や肉がふるまわれ、直接、接する**春明門大街**では、様々な見世物が開かれ、多くの見物人でにぎわった。この時のエピソードとして、宮女の**永新**の説話が知られる。また、**100匹**に舞馬が杯を口にくわえて、拝舞するという催しも行われた。

安史の乱後は、急速に衰え、皇帝の来訪もまれとなり、「**竜池**」も明代に耕地となっている。

興慶宮公園

1958年、**上海交通大学**の西方への移動に関連して、西安で最大の公園である**興慶宮殿公園**（面積：743エーカー）がその敷地内に設けられた。公園の南側は**西安交通大学**に向かい合っていて、園内に**興慶湖**（湖面：150エーカー）もあり、湖上の**沈香亭**は唐代の建築風になっている。

参考文献

- 松浦友久・植木久行『**長安洛陽物語**』（**集英社**、1987年、ISBN 9784081620029）
- 徐松『**唐両京城坊攷—長安と洛陽**』（愛宕元訳注、**平凡社**〈**東洋文庫**〉、1994年、ISBN 9784582805772）
- 大室幹雄『**遊蕩都市**』（**三省堂**、1996年、ISBN 4385357579）
- 村山吉廣『**楊貴妃：大唐帝国の栄華と暗転**』（**中央公論新社**〈**中公新書**〉、1997年、ISBN 4121013484）

外部リンク

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=興慶宮&oldid=88165195>」から取得

最終更新 2022年2月21日 (月) 10:10（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。